

山ぼうし

第38号 平成20年 5月30日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、
花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし
の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



畏 敬 の 念 を 持 と う

校長 兼 平 栄 補

畏敬という言葉を知らない若者が多い。森羅万象に、「おそれ、うやまう」気持ちが無いのだから当然であろう。

「恐」（おそれる）と同音異義語に「畏」がある。同じ「おそれる」でも「恐」は「恐ろしい」を意味し、「畏」は「かしこまる・うやまう」という意味で用いられている。

先生を敬い、友と親しみ、学校を愛するようという願いから、「畏敬」という言葉を校訓にする学校も多い。しかし、日常的に、若い教師は生徒との「タメ口」を意に介さず、生徒は友をいじめ、学校を学舎とも思わない現実がある。

教師を教師とも思わない言動、親や祖父母の殺傷、万引き・ひったくり・恐喝など、人生の先達への尊敬の念が無い。

先日、就職への支援を頂いている I 氏から、M 社の新採用者研修の様態を伺った。

先輩社員の説明に対し、言葉を選ばず、単純に「わからない」と返答したり、会社が依頼した外部講師の講話中に、居眠りを指摘され、指導された事に対し、立場を弁えず、聞こえよがしに不平不満を言った者が居たそうである。

言葉の幼稚さは、人間の未成熟さの証拠といえるだろうし、畏れを知らないのは若さの故かもしれないが、自己中心的な価値判断しかできない未熟さを嘆かずにはいられない。

家庭や学校において、日常から目上に対する畏敬の念を抱く心がけが必要である。

また「畏敬の念」にはもっと大きな道徳的・宗教的な面がある。

「畏敬の念」は、それがなくては、あらゆる道徳的価値がその重みを失ってしまうような特別な価値である。

「悪いことをしたけど、誰にもばれていない。ラッキー！」

「最近、怠けているけど、誰にも見られていないから怠けてしまえ。」

ついこんな心の誘惑にそそのかされてしまうことがある。そんなとき、私たちは時折、人間を超えた大いなるものからの眼差しが自分に降り注がれているのを感じることもある。昔の言葉で言えば、「お天道様が見ている」のである。

「たとえ誰にも見られていないように思えても、実は、人間を超えた向こうから、絶えず、私に視線が注がれている。だから私はどんなときでも、誠実に、一生懸命生きなくてはならない」このような規範意識の根底に位置するものである。

大自然への畏敬の念、人間の作り出す芸術文化・科学技術などへの畏敬の念が失われたら、そして、何よりも人権に対する畏敬の念が失われたら、「人格の完成」を目指す教育の目的が達成できるはずがない。心の教育は永遠の課題である。

6月行事予定

6月 3日 (火)	芸術鑑賞	6月18日 (水)	
6月 5日 (木)	高P連総会	~19日 (木)	校内球技大会
6月 5日 (木)		6月20日 (金)	計算検定
~9日 (月)	高総体後期	6月22日 (日)	漢字検定
6月 9日 (月)	母親委員会花壇整備	6月25日 (水)	計算検定
6月13日 (金)		~27日 (金)	内科検診
~17日 (火)	第1期定期試験	6月27日 (金)	情報技術検定
6月15日 (日)	同窓会関東支部交流会		



工作部 2008ワールドエコノムーブ大会参加

工作部は5月4日(日)・5日(月)に秋田県大潟村ソーラースポーツラインで行われた『2008ワールドエコノムーブ大会』に参加してきました。この大会は、大会本部から支給されたバッテリー4個で、2時間の競技時間内にどれだけの距離を走る事ができるか競う大会です。

工作部では1年間かけ2台の競技車両を製作し、大会に参加しました。

4日の公式練習は29℃を越す猛暑の中で行われました。運転手の体調が心配されましたが、2年生チーム・3年生チームともに順調に走行距離を伸ばし、本戦に向けてセッティングの確認もでき満足のいく走行でした。

5日の本戦は昨日と変わり風が強まり、雨雲が近づく中で行われました。結果は2年生チームがジュニアクラス40チーム中16位



(64.2 km)、3年生チームが18位(63.7 km)と昨年に続き工作部の記録を更新することができました。

P T A 総会開催

5月10日(土)学校において、会員44名の参加をいただき総会を開催いたしました。総会では、会長の伊藤敏さんの後任として、小向喜明さんの就任をはじめ、各議案は原案どおり承認されました。

昨年度の総会において、「教育振興会のあり方」について検討していくことが提案されましたが、昨年度中に検討を重ねた結果、教育振興会については発展的解散をするということになりました。今後は同窓会、P T Aが力を合わせて取り組んでいくこととなりますのでよろしく願いいたします。



また、6月10日(火)には母親委員会による花壇整備が予定されています。よろしく願いいたします。

自転車競技 自主活動

岩手日報杯第60回県自転車ロードレース大会は5月18日(日)、紫波町観光ぶどう園駐車場前を発着点とする1周9.7kmの周回コースで行なわれ、電気電子科3年長澤佳輝がジュニア1部に出場し、県2位という結果を挙げた。県外選手をいれても総合8位入賞を果たし、インターハイが見えてきた。

長澤は小学3年から自転車競技を始め、高校入学後も放課後や休日に1人でトレーニングを行なっている。多いときは宮古から紫波まで往復250kmの道のりを走行し、黙々と努力を重ねてきた。高総体は6月8日(日)に紫波町で行なわれ、上位12名が東北大会に出場できる。東北大会は6月22日(日)に青森県八戸市で行なわれ、各県1位と上位数名(まだ未定)がインターハイに出場できる。1人での練習が仇となり駆け引きが苦手という欠点もあるが、持ち前の明るさと精神力でタフな走りを見せてもらいたいものです。



◆ 津軽石川原清掃行わる ◆

5月14日(水)、「津軽石川原清掃」が、時折小雨が降る中に行われました。

川原清掃は、創立20周年へ向けた生徒会活動の一環として、「地域に恩返しをしよう」「マナーを見直そう」と平成3年度から始められ、今年で18回目となります。

昨年度から大須賀海岸も清掃範囲に加え、9つの場所に分かれて清掃を行いました。

今年集まったゴミは昨年度よりも多く、回収された袋の数は約百袋、市のトラック1台では搬送しきれない位でした。空き缶、ペットボトルや菓子袋、発泡スチロールなど様々なゴミが回収されました。また、回収されたゴミの約3分の1は大須賀海岸区域からのもの

でした。生徒たち一人ひとりが今後も自分達が学んでいる地域美化の精神を忘れずに学校生活を送ってほしいものです。

